

令和3年度

幼稚園だより 10月号



文京区立千駄木幼稚園

秋の訪れ

園長 渡邊 典子

十五夜と秋分の日が過ぎて、季節は秋に移ってきました。日中は過ごしやすく、夜は寝やすく、何をするのにも心地よく、食欲の秋、読書の秋とこれからの季節を皆さんはどのように過ごされるでしょうか。

先日、担任と一緒に裏庭を一周してきた4歳児たちが、「園長先生ほら見て」と飼育ケースを見せてくれました。中にはショウリョウバッタを始め、数種類のムシがいて、鳴いています。「どうしたの」と聞くと、「裏庭で捕まえたんだ」と教えてくれました。素手でムシを捕まえることのできる子どもたち、さすが千駄木幼稚園の子です。その後、日曜日の夜にテレビ放送された番組で『鳴く虫の演奏会』を見た私と子どもたちは「面白かったね」「ムシってすごいね」「不思議だね」と話が盛り上がりました。ムシに触れたり飼ったりすることが追求する機会になったり、友達や学級で話題にすることでムシが苦手なものではなく身近に感じたり、興味や関心の広がりにつながったりしていきます。多様な生き物に触れておくことは幼児期に大切なことです。

3歳児は、築山の近くでシイの実集めを楽しんでいます。春は花摘みに使っていたバックが今はシイの実集めに使われ、Aちゃんは「ほらあった」とシイの実を拾って見せてくれました。「1つくれる」と聞くと「だめ」と。「じゃ、部屋でみんなで使ってね」と言うと、「持って帰る」と。たくさん集めて満たされる経験も大事ですし、満たされると次にはみんなの物として使えるようになります。自然からのたくさんの恵みがあってこそできる経験です。

また、裏庭のクリ拾いから戻ってきた5歳児のBちゃんに「園長先生クリを取るのにいいやりかた（方法）ない」と聞かれたので、「今どうしてるの」と私が聞くと「イガイガが痛いから踏んでいんだけどかわいそうだから」と話してくれました。なるほど、手では痛くて取れないけれど踏むことがかわいそう、と思う感性が嬉しくなりました。その後、軍手はどうか、トングで取るのどうか、と担任や友達と考え、試しています。体験で得ることのできる学びは貴重ですし、自然は豊かな感性を育んでくれます。

秋と言えばスポーツの秋でもあり、2日に「うんどう わくわく フェスティバル」を行います。2学期に入り5歳児は屋上や園庭で友達や学級、学年でリレーを行い、勝ち負けを経験してきました。なかなか勝つことのできないチームは秘密練習をしているようで1勝を目指して頑張っていますし、園庭に飾った子どもたちの旗はリレーの雰囲気盛り上げています。保護者の皆様には人数制限などにご理解とご協力をいただき、秋晴れの下で楽しむ子どもたちの姿をご覧いただきたいと思います。

そして、10月も引き続き感染症予防対策を行ってまいりますので、保護者の皆様には今後ともご協力をお願いいたします。



シイの実集め(3歳児)



捕ったムシがたくさん(4歳児)



リレーでのルールの確認(5歳児)